

9 土壌管理
 (1) 表層管理

- ・園の地表面管理は、イタリアンライグラスか雑草による草生が望ましい。
- ・雑草・牧草類は、最低年3回、草刈りを実施するとともに、主幹周囲に敷く。
- ・牧草を播種する場合、8月上旬に草地除草剤により雑草を枯らし、9月上～中旬に播種する。
- ・平坦地及び緩傾斜地であれば、乗用型草刈機（ハンマーナイフモアも含む）を使用すれば、下草刈りの作業効率はより高まる。
- ・ギンギシ、ヤブガラシ、クズ等は、堀取りや農薬等により園地から取り除く。収穫作業の妨げになるため、園地からできるだけ排除する。
- ・ホワイトクローバーは、クリの収穫作業の妨げとなりやすいので草刈り等、注意を要する。
- ・乗用型草刈機は栽培面積が大きい場合、作業効率等、特にそのメリットが大きくなる（図-46 参照）。



図-46 乗用型草刈機

(2) 施肥

1) 施用時期

- ・基肥の施用時期は、寒冷地では2～3月、それ以外の地域では11～翌3月までとする。
- ・施肥を実施する前に、常々、自分の園の適正施肥量をしっかり把握しておく（表-12～13 参照）。
- ・凍害の恐れのある園地では、基肥の割合を減らす。

表-12 時期別三要素の割合

(単位：%)

施肥時期	窒素	リン酸	カリ
基肥（11月～翌年3月）	60	100	50
追肥（7月上～中旬）	20	—	30
礼肥（9月下～10月上旬）	20	—	20

表-13 クリ施肥量の一例

樹 齢	栽培本数	窒 素	リン酸	カ リ	1本当たり窒素量
2 ~ 3 年	40	3	2	2.5	0.075
4 ~ 7 年	40	12	8	10	0.3
8 ~ 12 年	20	18	12	15	0.9
15 年以上	12	20	14	17	1.67

注. 窒素、リン酸、カリはいずれも成分量 (kg/10a)

2) 施用量

- ・ 基肥は、窒素の場合、年間施用量の60%とし、残りを追肥、礼肥とする (表-12 参照)。
- ・ 園地が草地の場合、上記基準の2~3割多く施す。

3) 施肥方法

- ・ 幼木では樹冠の外側30cm、深さ15cmの溝を輪状に掘り、ここに有機質肥料を施し、覆土するか、樹冠周囲4カ所程度、蛸壺状の穴を掘り、ここに同肥料を施す (図-47 参照)。
- ・ 追肥、礼肥等に使用する、化学肥料等の速効性肥料は、樹冠周囲にばらまき、その後、深さ5~10cmに浅耕しながら土とよく混ぜる。
- ・ 成木の場合、全面散布する。
- ・ 牛糞堆肥等の有機質肥料は完熟したものを使用する。



図-47 基肥の施用例
(牛糞堆肥等の投入)

1.0 生理的落果

- ・ 生理的落果*は、6月末~7月中旬までの前期落果と8月以降の後期落果に分けられる。
- ・ 前期落果は栄養不足や樹勢が衰えた樹に多く発生する。
- ・ 結果母枝の基部径が岡山1号は8mm、岡山3号は5mmを下回ると、前期落果が多い。